

視察 簡易報告

資料2-2

視察先一覧

No.	視察日	方法	視察校名	所在地	設置者	主な観点	スライド
1	R3.12.3	オンライン	神奈川県立秦野養護学校／ 秦野市立末広小学校	神奈川県 秦野市	県／ 市	交流及び共同 学習	1
2	R3.12.6	実地	神戸市立灘さくら支援学校／ 灘の浜小学校	神戸市	市	交流及び共同 学習	12
3	R3.12.6	実地	大阪府立生野聴覚支援学校	大阪市	府	情報保障／ 地域交流	次回 報告
4	R3.12.7	実地	大阪府立大阪南視覚支援学校	大阪市	府	ICT	次回 報告
5	R3.12.21	実地	愛知県刈谷市刈谷特別支援学校 ／小垣江東小学校	愛知県 刈谷市	市	交流及び共同学 習／医療的ケア	次回 報告
6	R4.1.11	オンライン	新潟県十日町市立ふれあいの丘 支援学校／十日町小学校	新潟県 十日町市	市	交流及び共同学 習／複合化	次回 報告
7	R4.1.13	オンライン	熊本県立熊本かがやきの森支援学校	熊本市	県	福祉避難所／ 医療的ケア	次回 報告
8	R4.1.13	オンライン	熊本県立熊本支援学校	熊本市	県	福祉避難所／ 教室不足	次回 報告
9	R4.1.14	オンライン	熊本県立盲学校	熊本市	県	福祉避難所	次回 報告
10	R4.1.14	オンライン	熊本県立熊本聾学校	熊本市	県	福祉避難所	次回 報告
11	R4.1.14	オンライン	熊本県立熊本はばたき高等支援学校	熊本市	県	福祉避難所／ 地域交流	次回 報告

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

公立小学校の空き校舎をバリアフリー改修し、特別支援学校を設置。

主な観点

交流及び共同学習

所在地

神奈川県秦野市末広町6-6

障害種

知的障害

秦野養護学校

秦野市立末広小学校

児童生徒数

小学部21名
中学部13名

531名

施設情報

校舎：
鉄筋コンクリート造
2階建て
延床817㎡
昭和56年

校舎：
鉄筋コンクリート造
4階建て
延床5,806㎡
昭和52年

屋体：
鉄骨造
2階建て
延床779㎡
昭和52年

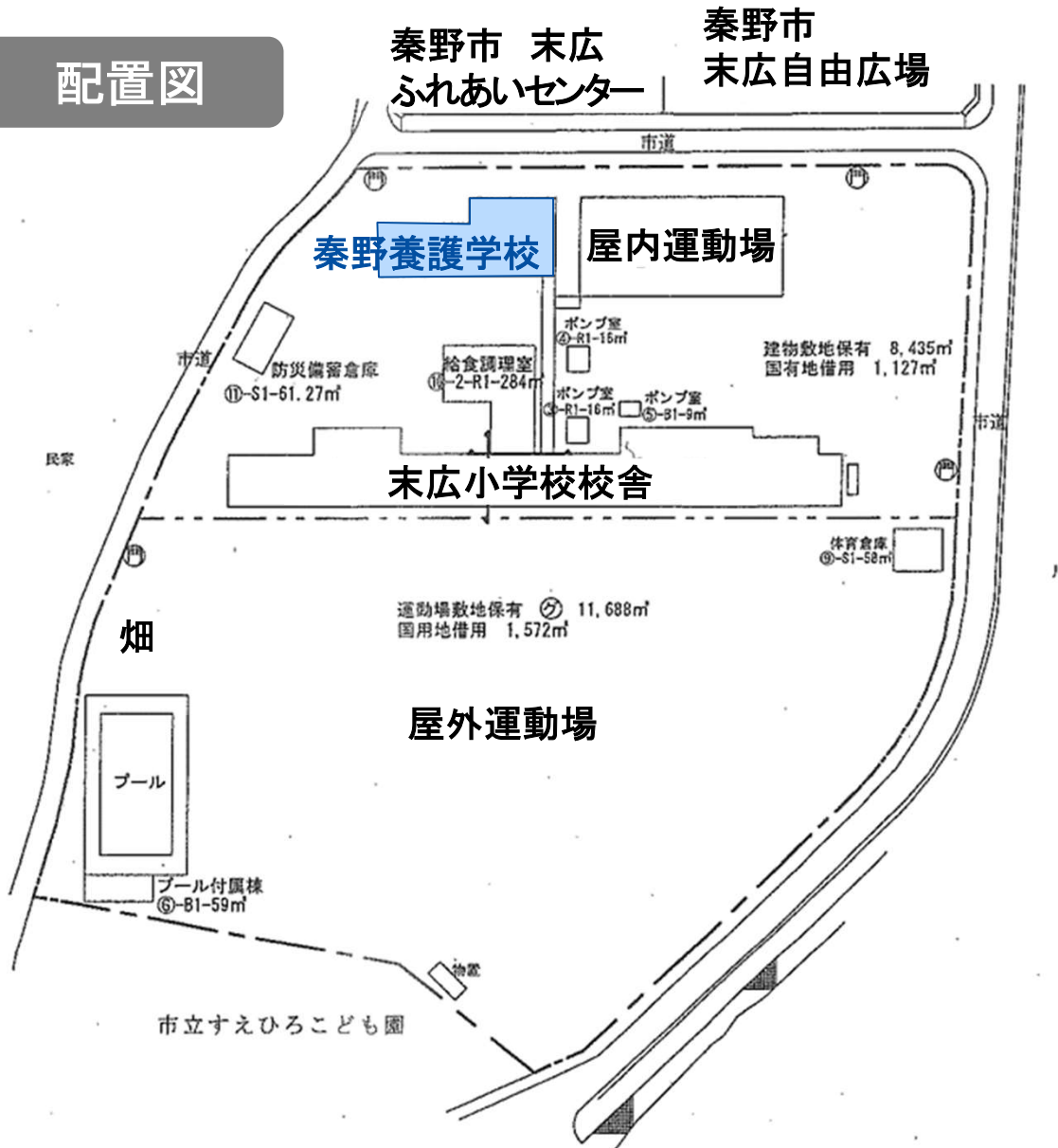
沿革・背景

昭和33年に病弱の養護学校として秦野市落合に開校。その後、知的障害教育部門も設置。H28に、秦野市内の知的障害教育ニーズの高まりにより、市の「『はだの』の子は『はだの』へ」との願いと、県の「ともに生きる社会」の願いが合わさり、小学校の空き校舎を活用して設置。

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

配置図



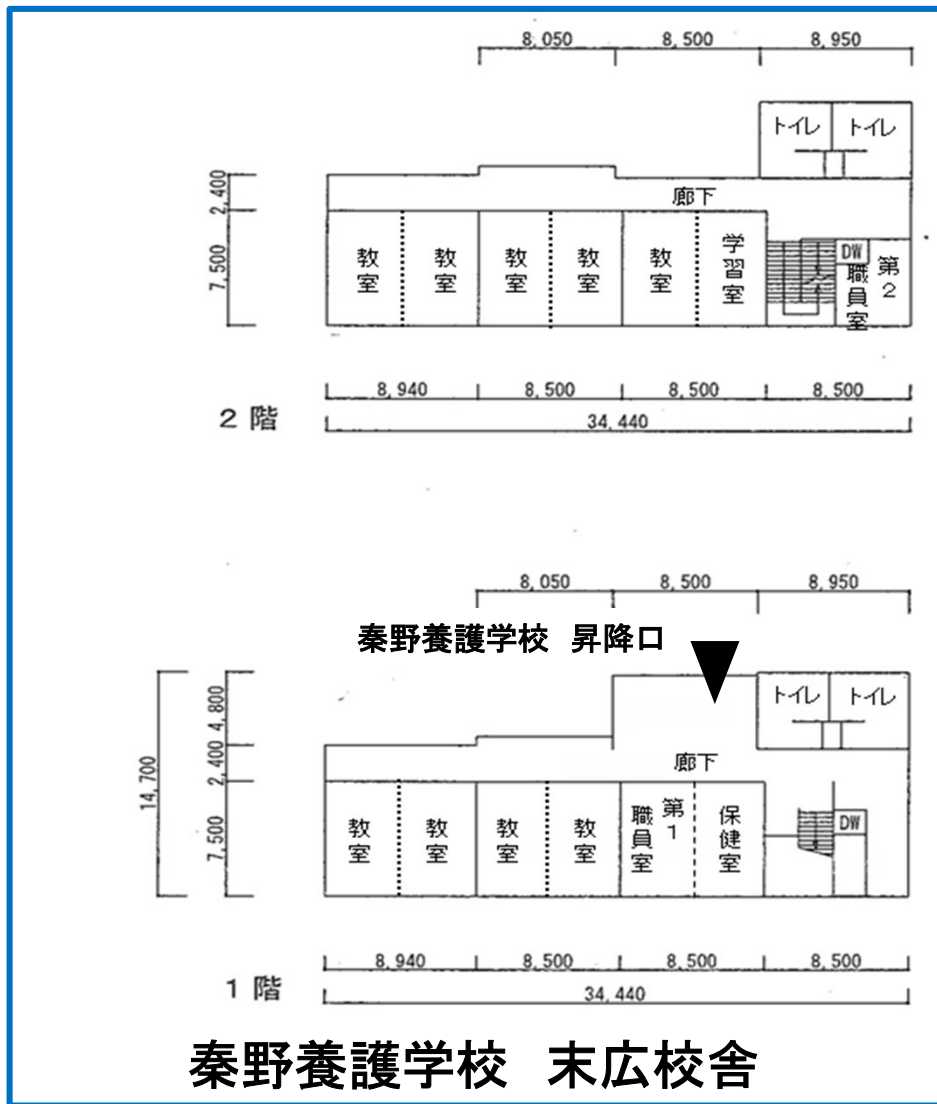
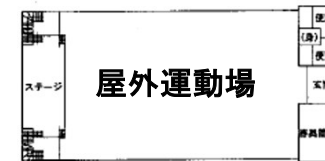
- 授業等では小学校の校舎内の多目的室等や、屋内運動場を利用。外履きに履き替えずに行き来できる。
- 末広小学校の運動場や畑なども利用。
- 小学校との交流及び共同学習は、屋内運動場で音楽の発表を鑑賞したりして実施。
- また、秦野市末広自由広場・末広ふれあいセンターを利用。基本的なバリアフリーで不自由していない。

1. 神奈川県立秦野養護学校 / 秦野市立末広小学校

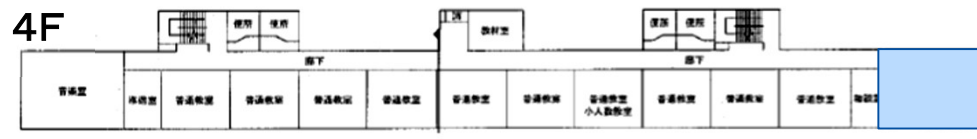
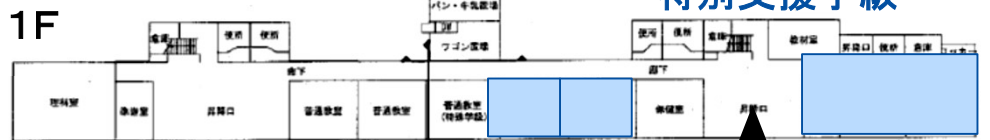
※知的障害教育部門小中学部

平面図

秦野養護学校 末広校舎



特別支援学級



末広小学校

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校 ※知的障害教育部門小中学部



小学校屋内運動場における養護学校の授業



小学校屋外運動場脇の畑における授業



秦野市末広自由広場における活動



秦野市ふれあいセンターにおける授業

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校 ※知的障害教育部門小中学部



小学校との合同避難訓練



小学校児童の演奏を聴く、交流及び共同学習



小学校特別支援学級との給食交流



パラスポーツ(フライングディスク)教室

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部



小学校屋内運動場への通路



小学校教室棟への通路

棟間の通路は、外履きに履き替えず雨の日も行き来できる。

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

整備時の課題

- 知的障害教育部門ではあるが、出入口や上下階移動のバリアフリーが必要
- 和式トイレが残っており、また排泄時に失敗しても身体や服を洗えない
- 別の学校として運営するにあたっては事務室などの管理部門が不足

実際の整備1

- 養護学校の開設に伴う既存施設の改修で、間仕切りを設けた。
 - また、体温調節が苦手な児童生徒のために、教室に空調を設置。
 - 併せて、昇降口へのスロープ設置や階段への手すりを設置。
- ※肢体不自由教育部門の児童生徒は在籍していない。



1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

実際の整備2

- 養護学校開設に伴い、和式トイレを洋式に変更したり、身体を洗うための簡易シャワーや汚れた服の洗濯機置き場を整備。
- 併せて、2階ベランダ部分に転落防止柵を設置。また、末広校舎には事務室がないのでインターフォンを設置。
- さらに、校舎全体に声が届くよう放送設備を職員室に設置。



個室トイレ



簡易シャワー



洗濯機置き場



転落防止柵



インターフォン



放送設備

1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

整備後の課題

- 各室の照度確保。
- 学ぶ空間や教材置き場等の不足。
- 新型コロナウイルス感染症対策の観点から回転型横水栓は、衛生上不安。

実際の整備

- 養護学校開設後、安全と照度確保のため吊下げ式蛍光灯から、末広小学校多目的室も含め、天井設置のLED電灯に変更。
- また、校舎全体を学びの場とするため廊下に空調を設置。
- 併せて、面積を最大限有効に使う必要があり、指導スペースや作業スペースを校舎内に増設。
- 教材倉庫も不足していたため、校舎外部に増設。
- 衛生面を考慮し水栓をレバー式に変更。



1. 神奈川県立秦野養護学校／秦野市立末広小学校

※知的障害教育部門小中学部

その他

- 小学校の特別支援学級とも交流。
- 施設設備のみならず、コミュニティスクールで双方の校長が委員になったり、部会を設けている。
- 研修等で職員間の交流を両校で深めている。

今後の課題

- 好事例もあるが、スタート時にうまくいっていた取組やそもそもの設立理念が年数を重ねるにつれ、うまく引き継がれなくなったものもある。今後は、双方の教員が交流及び共同学習の取組について、より理解していく必要がある。単発のイベントではなく、継続して教科の中へ位置づけるなど、検討する必要がある。
- 小学校内に中学部を設置することには、発達段階及び教育課程の違い、本人、保護者、地域等の捉えなどとともに検討していく必要がある。(例えば、中学部の交流及び共同学習は小学校ではなく他の中学校で行う、など。)
- 児童・生徒数の増加に伴いスペースが不足している。

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

特別支援学級の需要が高まる人口増加地域で、新たな学校を新設・新築。

主な観点

交流及び共同学習、ICT

所在地

兵庫県神戸市灘区摩耶海岸通2-2-1,2

障害種

知的障害
肢体不自由

児童生徒数

灘さくら支援学校

	知的	肢体	計
小学部	32	18	50
中学部	57	13	70
高等部	—	13	13
計	89	44	133

灘の浜小学校

399名

施設情報

鉄筋コンクリート造
6階建て
延床11,928㎡
令和3年

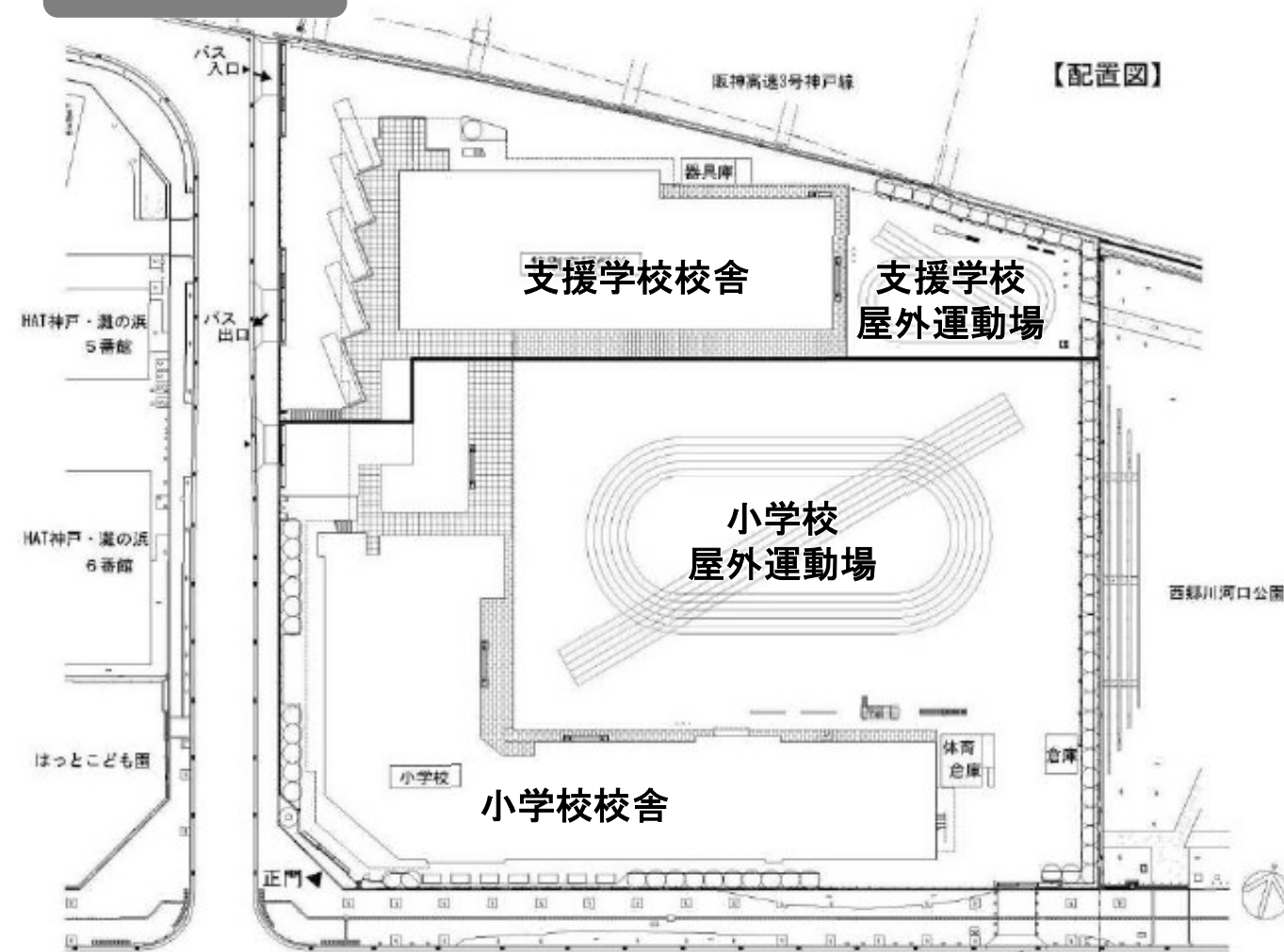
鉄筋コンクリート造
5階建て
延床11,246㎡
令和3年

沿革・背景

- 市内ではインクルーシブ教育システムの考え方が浸透し、特別な支援を必要とする児童生徒は小中学校へ流れている傾向にある。その中で、特に灘区は人口増加地域でもある。
- 阪神・淡路大震災後の都市計画でまとまった学校用地があったため、特別支援学校と小学校を、近隣学校との学区整理を行い、一体整備。

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

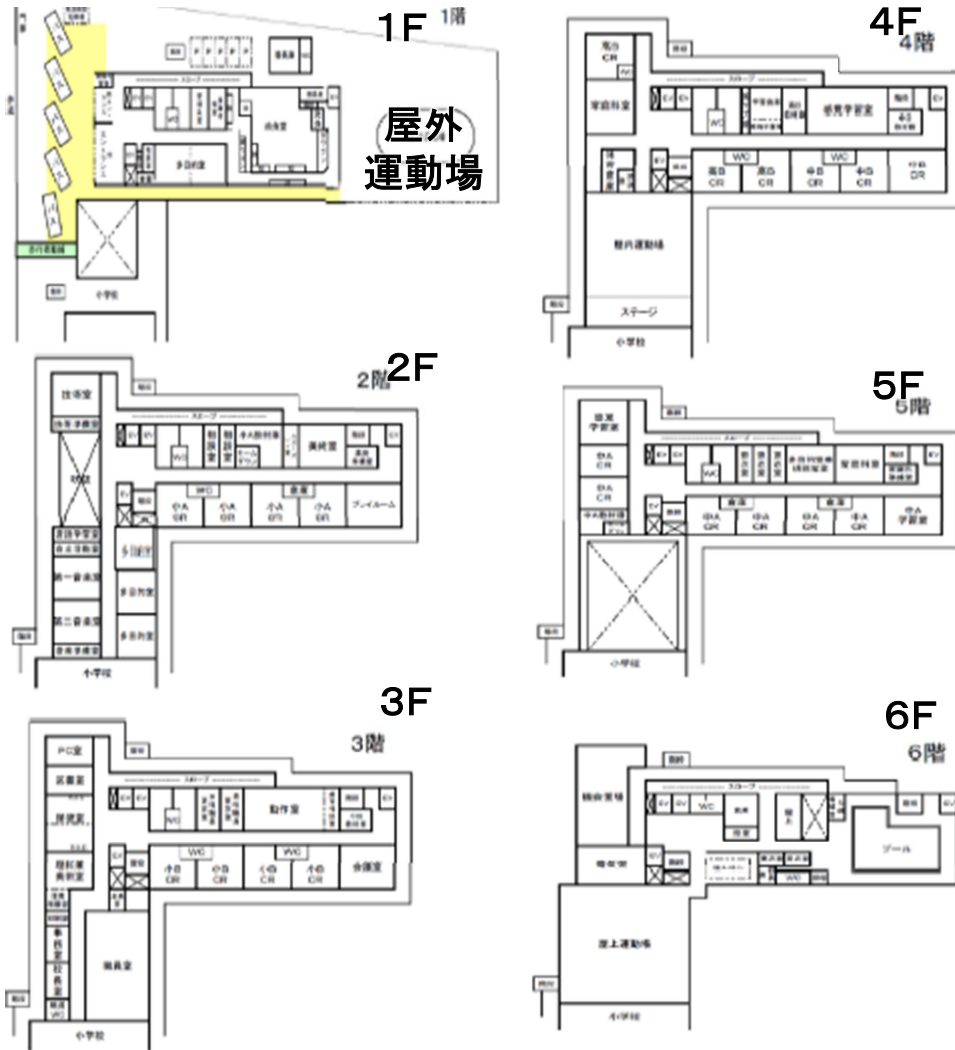
配置図



- 障害の多様化に対応し、障害種別に関わりなく、必要に応じて部門を越えて学習活動を行えるようにしている。
- 特別支援学校と小学校の屋外運動場の間にはフェンスを設置せず運動場間の往来が可能になっている。
- 阪神高速3号線に近接するため騒音・振動に対し構造や開口部などで配慮。北側から車両がよく見えるので興味のある児童生徒が観察。
- 特別支援学校に必要な4台のEVを設置。
- 当初計画では特別支援学校に駐車場が足りず、増設している。

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

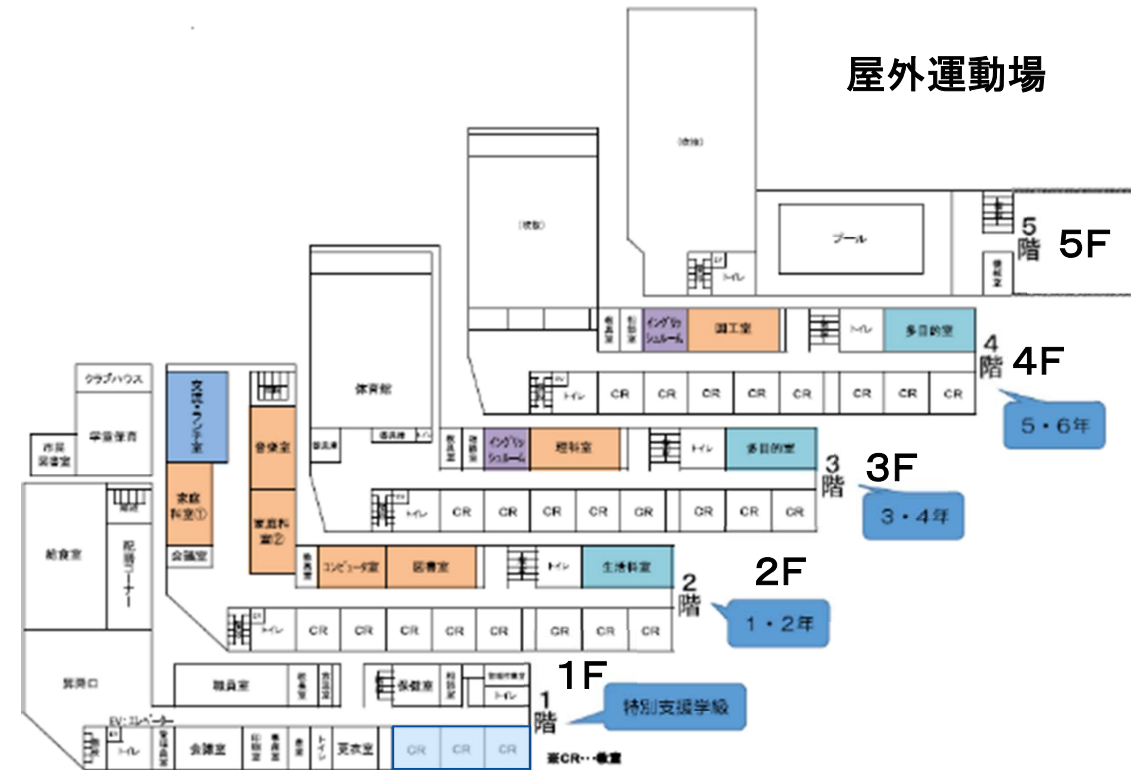
平面図



灘さくら支援学校

○校舎は面積効率の良い中廊下型。南北面や東西面に教室を配置。

○校舎の連絡部分や屋外運動場で自然と交流できる計画。(コロナ禍で校舎の連結部分は未活用)



特別支援学級

灘の浜小学校

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

整備時の課題

- 市内で初めて小学校と特別支援学校を合築するにあたり、双方の交流の在り方・空間整備に配慮する必要。
- 小学校も含め計画敷地全体にわたってバリアフリー化が必要。
- 知的障害児への対応のため、カームダウン室の配置等、施設整備上の配慮が必要。
- 小学校・特別支援学校含め、ICT活用をしやすい環境とする必要。

実際の整備1

- 広々と運動できるように、特別支援学校の屋上にはオールウェザーの運動スペース等を設けている。



2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

実際の整備2

ICT活用のため、端末の見やすさの観点などから小学校・特別支援学校の普通教室に暗幕を整備。



電子黒板を活用した小学校の授業



特別支援学校の
ICT対応のための暗幕

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

実際の整備3

- 小学校の屋内運動場や、交流・ランチルームは交流及び共同学習のために特別支援学校に近い位置に配置。
- 交流及び共同学習にも使われる特別支援学校の2階の多目的室は、稼働間仕切りで区切られており、3区画を一体的に活用することもできる。
- 交流及び共同学習は、それらの空間のほかにも音楽室、HR教室にも来うる。



小学校の屋内運動場



小学校の屋内運動場の空調機



小学校 交流・ランチルーム



特別支援学校 多目的室

2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

実際の整備4

- 特別支援学校には肢体不自由児のための感覚学習室や、知的障害児等のためのカームダウン室や、幻想的な模様 of 投影等により精神を落ち着けるスヌーズレン室など、自立活動等に必要な諸室を整備。



2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

実際の整備5

- 特別支援学校では、校内各所は十分な動線のバリアフリー化が図られているほか、教室へのバリアフリースイレの設置や屋内運動場のステージやプール内部のバリアフリー化も図られている。



2. 神戸市立灘さくら支援学校／神戸市立灘の浜小学校

実際の整備6

- 水害時の垂直避難も考慮し、屋内運動場など避難所として想定している1階と3階には非常災害トイレを設置し、水道が止まってもプールの水などを活用できる設備になっている。
- 水害等の災害時の垂直避難を考慮し、肢体不自由部門を3・4階に配置している。



今後の課題

- 施設整備は済んで、令和3年4月から開校しているものの、コロナ禍の影響で当初想定されていた交流及び共同学習が展開できておらず、今後実際に実施する中で、課題を洗い出していく必要。